

NO. 493

令和元年度
三田市人権ポスター入選作品



武庫小学校3年(前年度)
和田 快音さん

人権さんだ

人権さんだは、みなさんに人権に関する気づきや情報などをお届けします。新たな発見や共感したことなどを含めてご意見、ご感想を人権推進課までお寄せください。問い合わせ＝福祉共生部共生社会推進室人権推進課 (559-5148 FAX562-1294 eメールアドレス jinken_u@city.sanda.lg.jp)

その言葉、
自分に向けて言えますか?
その態度、
自分に向けてできますか?

ゆりのき台
おきなな 沖中 由里子さん

令和元年度
三田市人権標語入選作品

「子育て」に社会全体で関わる

現代社会の「子どもの貧困」

今、日本の子ども（18歳未満）の6〜7人に1人が、貧困状況にあると言われています。（平成27年厚生労働省調べ）現代社会の中で子どもや子育て世帯は、どのような状況におかれているのでしょうか。

相対的貧困と絶対的貧困

日本における「子どもの貧困」とは、主に相対的貧困のことを言います。

相対的貧困とは、その国や地域の中の平均的な所得水準よりも低い状態にあることをいいます。通常の社会生活の中の習慣や行為（物の所有や教育文化的な経験など）がしづらい状態のことで「見えない貧困」と言われることもあります。一方で、人間として最低限の生存を維持することが困難な状態を絶対的貧困といいます。

三田市の調査結果

平成29年に市は、子どもや保護者、その支援団体を対象に生活実態などに関する調査を実施しました。この調査結果（※1）から、子育て世帯の抱える課題についてまとめてみました。

※1 詳しくは三田市ホームページ「三田市子育て世帯の経済状況と生活実態に関する調査」を参照
https://www.city.sanda.lg.jp/kodomo/kodomonohinkontaisaku.html

子どもにかかわる課題

・貧困により、子どもが「周りのみんなにとつては当たり前」の生活が自分には当てはまらないと感じ、「なぜ自分だけ？」という疑問が、やがて「どうせ自分なんて」という気持ちに変わってしまうことがあります。そして自尊心や感情と言われる、自分や人を大切に思う気持ちが育ちにくくなります。



保護者にかかわる課題

・核家族化が進行し、親戚や家族などから子育て支援が受けにくい傾向があります。・就労形態の変化や身内の介護などの生活環境の変化で、子どもとかわる時間の確保が難しくなっています。・地域とのかかわりが希薄化し気軽に子育て支援を頼めないなかで、孤立化してしまうこともあります。・行政や民間などの子育て支援情報を知らず、支援を受けられない場合があります。



「子育て」でつながる地域の輪

このような現状の中、子どもたちが生まれ育った家庭の経済状況や社会的状況にかかわらず、未来

への希望をもち自立心を伸ばすことのできる環境や機会を提供するために保護者はもちろんのこと、社会全体で子育てに取り組む必要性が高まっています。三田市内の各地域でも「子ども食堂」などの名称で子どもへの支援の輪が広がっています。

藍地区「あい子どもサロン」の取り組み

子どもたちが安価、あるいは無料で食事をとることができる「子ども食堂」は、現在市内の6カ所で開催されています。今回は、昨年7月から始まった藍地区の「子ども食堂」（名称「あい子どもサロン」）の様子を代表の今井昭夫さんにお聞きしました。



▲今井 昭夫さん

子どもたちの過ごし方

食事だけでなく、学校の宿題をしたり、英語を教えてもらったり、途中から塾に行く子や、ゲームをする子などさまざまです。紙芝居を楽しむこともあります。食事の配膳や後片づけも手伝ってくれます。



幅広い学年の子どもたちが集まり、楽しく過ごすことができます。



「あい子どもサロン」

- 日時 第1・3金曜日 (17時から20時まで)
- 場所 つつじが丘小学校 (交流広場、家庭科室)
- メニュー 野菜を多く取り入れたメニュー
- 参加者 幼稚園児から高齢者まで 多い時で50人程度
- 協力 民間企業、三田市社会福祉協議会

立ち上げたきっかけ

地域高齢者への送迎ボランティア団体（名称：NPO法人「アユート」）に集まるボランティア仲間の中で、まちの活性化には高齢者支援だけでなく「未来を担う子どもたちを中心に据えよう」という思いが高まり「子ども会」が立ち上がりました。その活動を通して、学校と地域との関係が密になり、すべての子どもたちの居場所づくりの必要性も感じ、「あい子どもサロン」を立ち上げるようになりました。